

# Actions アクションズ

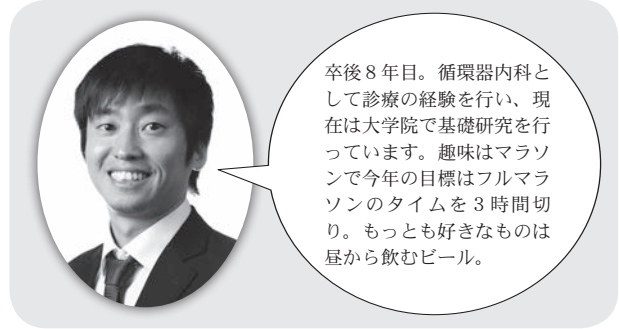
若手医師活動報告

## みんなで良医になるために 若手ができること

京都府医師会若手医師ワーキンググループ リーダー

杉本 健

京都府立医科大学循環器内科



卒後8年目。循環器内科として診療の経験を行い、現在は大学院で基礎研究を行っています。趣味はマラソンで今年目標はフルマラソンのタイムを3時間切り。もっとも好きなものは昼から飲むビール。

京都府医師会には「若手医師ワーキンググループ」という部署がある。「若手医師ワーキンググループ」とは京都府医師会主催の研修医向け勉強会を中心に行う5～12年目で構成された医師のグループである。

最初に「若手医師ワーキンググループ」と関わったのは研修医1年目の際に「屋根瓦塾」という勉強会に参加したことであった。

僕は綾部市立病院という京都の北部にある病院で研修を行った。同期の研修医は3人であった。医療過疎である広い京都府北部に点在する臨床研修医指定病院。研修中はさまざまな経験をさせてもらい、勉強もしてきたが、ふと「周りのみんなはどんな経験をしているのだろうか。京都市内ではさまざまな勉強会が行われており、自分は周りに置いてかれていないだろうか」と思うこともあった。

そういったときに参加した勉強会が「屋根瓦塾」であった。他病院の研修医とチームを作りシミュレーターなどを利用しさまざまな手技を練習したり、症例ベースの問題を解いていくといったものであった。自施設で経験したアナフィラキシーの症例は回答できたが、経験していなかった低ナトリウム血症の症例は回答できずチームのメンバーが答えていたことを今でも覚えている。その勉強会に参加し、さらにモチベーションを上げて研修を行った。

そこから少し月日が経ち、次は研修医を指導する側に誘っていただいた。勉強会のスタッフとして仕事に関わらせていただき、指導することの難しさ、また多数の助力がなければ運営できないことが身にしみた。

春は京都府医師会が主催される京都府下全ての研修医に対して「新研修医総合オリエンテーション」を行う。これは、医師、社会人となって初めて受ける研修である。そのアイスブレイキングを企画しクイズ形式で班での結束力を高めてもらい、その後のオリエンテーションに臨んでもらう。

夏の「臨床研修屋根瓦塾KYOTO」では50名近くの研修医に対して講義を行う。さまざまな病院の研修医が3～4人1組のチームとなり、次々と繰り出される問題を解いていく「座学ブース」と、挿管やCV挿入、急変対応など体を動かす「シミュレーションブース」を周り、点数を競い合う。

冬は救急外来実技、災害医療シミュレーションに特化した「研修医ワークショップ in Kyoto」を行い、実臨床ではどうしても経験が少なくなってしまう領域を勉強してもらう。

上記に加え、医師会広報誌である研修医向けの情報誌「Arzt」の発刊も行い、数々の情報を発信している。



このような活動を継続して行うためにはさまざまなハードルがある。京都府下全てから集まりやすく大きな教室がある場所・受講生である研修医に情報をしっかりと発信することができる発信力・講師として参加していただく各病院の先生方への連絡や調整・勉強会に必要な物品やシミュレーター。数々の点で医師会にバックアップしていただき「医師会にしかできない質の高い勉強会」を作り上げる。

またこうして作り上げた勉強会は講師側にもメリットがある。多数の専門科の先生が集まることにより、一つの疾患・一つの症候であったとしても多角的に捉えることができ、たくさんの学びや新たな発見がある。

京都の美しい街並みの一つである「次々と積み重なる屋根瓦」のように、受講生であった研修医が研修医を教える講師となり、講師であった若手医師が現場を取りまとめる役になる。そのように継続的に学びの場を設け、みんなでさらに良い医者になっていく。これが「若手医師ワーキンググループ」の願いである。

最後になりましたが京都はとても良いところです。季節を選ばず、一年中それぞれの四季の風情を楽しむことができます。2020年10月24日に行われる「全国医師会勤務医部会連絡協議会」では全国の研修医に集まっていただき、全国版「臨床研修屋根瓦塾KYOTO」を行う予定です。ぜひ一度京都に足を運んでいただき、京都府医師会の勉強会に参加していただければ幸いです。決して後悔はさせないものを用意して待っております。

